

第1回あらかわ俳壇

投句数	347句
投句者数	100名
兼題	鳥渡る、いわし雲、露草、糸瓜(へちま)
選者	佐々木忠利氏(荒川区俳句連盟会長)
期間	平成27年9月21日(月曜)から10月23日(金曜)

特選	難民を置き去るごとし鳥渡る	小松孝子さん
選評	内戦で余儀なく祖国を捨て、命からがら他国に移動する難民。鳥もまた同様に命からがら飛来地を目指す。比喩の「ごとし」が正に適写されている。	
入選	余生とは恥の上書き翳雲	金沢寛さん
	レーダーを秘めたる如く鳥渡る	下元祥三さん
	反り合わぬ曲り糸瓜や嫁姑	竹野美恵子さん
	露草や漢詩一行解読す	野村祥子さん
	風待ちの港を覆ふいわし雲	吉本つま子さん

第2回あらかわ俳壇

投句数	205句
投句者数	57名
兼題	枇杷の花、雑煮、白鳥、当季雑詠
選者	対馬康子氏(現代俳句協会副会長)
期間	平成27年12月11日(金曜)から平成28年1月10日(日曜)

特選	石垣より白鳥カーテンコールめく	金沢寛さん
選評	人生にはいろいろな締め切りがあり、決められた期日までにやり遂げなければならぬことの積み重ねです。一点の曇りもなく広がる青い空は、生きることそのものにも「締め切り」がある、という思いを、何のためらいもなく讀え、励まし、癒してくれませう。	
入選	手のひらにメモ書くヘルパー枇杷の花	鈴木玲子さん
	着膨れの胸に秘めたる老支度	竹野美恵子さん
	寒鴉もの食ふ臍を水奔る	星澤薫さん
	一人づつ餅の数いふ雑煮かな	松本光章さん